

日本気象学会

平成元年度秋季大会

会期：平成元年11月7日（火），8日（水），9日（木）

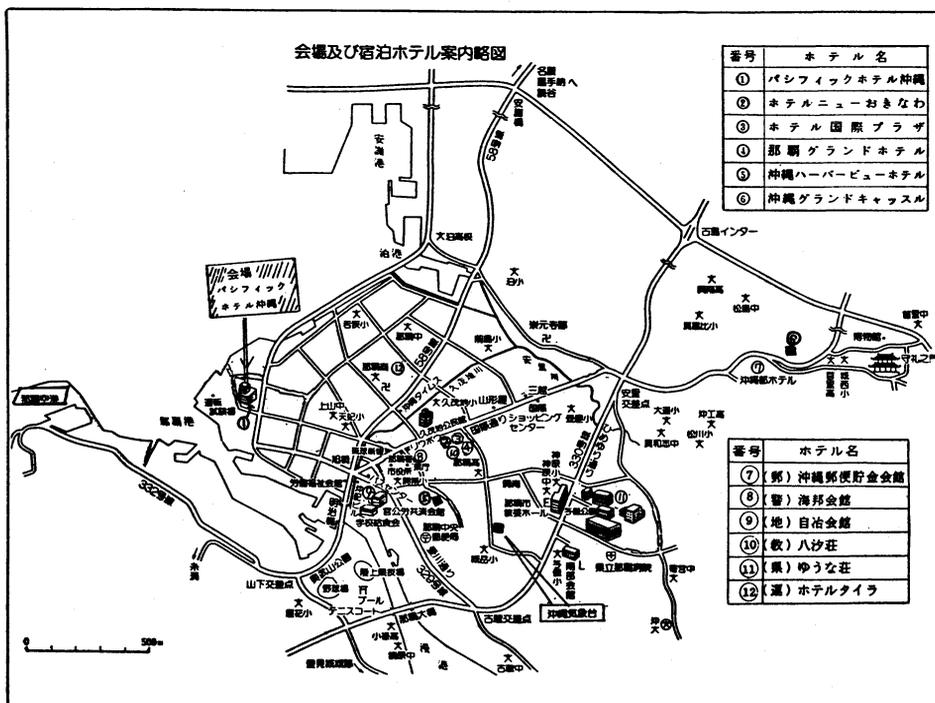
会場：パシフィックホテル沖縄 那覇市西町3丁目 6-1

電話 0988-68-5162

目次

| | |
|-----------|---------|
| 会場案内 | 601 |
| 大会行事予定表 | 602 |
| 研究発表内容一覧表 | 603 |
| シンポジウム内容 | 602 |
| 研究発表題目 | 604~612 |

会場案内図



大会行事予定

- 会場：パシフィックホテル沖縄（電話 0988-68-5162）
A会場：万座の間
B会場：守礼の間
C会場・ポスター・セッション：珊瑚の間
- 会期：11月7日（火）、8日（水）、9日（木）

| 行事 | | | |
|---------------------------|-------------|----------|----------------------------|
| 大会（研究発表） | (A, B, C会場) | 11月7日（火） | 09:00~12:30 13:30~16:00 |
| 大会（ポスター・セッション概要紹介） | (A会場) | | 16:10~16:30 |
| 大会（ポスター・セッション） | (C会場) | | 16:30~17:30 |
| 大会（研究発表） | (A, B, C会場) | 11月8日（水） | 09:00~12:00 |
| 山本賞，堀内基金奨励賞授与，日本気象学会奨励金贈呈 | (A会場) | | 13:00~13:30 |
| 韓国気象学会会長金正禹氏特別講演 | (A会場) | | 13:30~14:15 |
| 山本賞，堀内基金奨励賞受賞記念講演 | (A会場) | | 14:15~15:15 |
| シンポジウム | (A会場) | | 15:30~17:30 |
| 懇親会 | (A会場) | | 18:30~20:30 |
| 大会（研究発表） | (A, B, C会場) | 11月9日（木） | 09:00~12:00 13:00~17:00 |

シンポジウム「台風——その最盛期における特徴，予測及び防災について——」

- 日時：大会第2日（11月8日）15:30~17:30
 - 会場：A会場（万座の間）
 - 座長：石島 英（琉大・短大）
仲吉良功（南大東島地台）
 - 話題提供者
住 明正（東大・理）：台風の気候環境（熱帯地方の現象としての位置付け）
山岬正紀（気研・台風）：台風の構造（発生，発達）のシミュレーション，台風教
- 値予報モデルを含む）
村松照男（気象庁・予報）：台風の移動と予測（襲来頻度の統計的な考察を含む）
藤井 健（京産大・教養）：台風の強風の性質と確率モデルによるシミュレーション
最後に総合討論を行う

韓国気象学会会長金正禹氏特別講演

- 日時：大会第2日（11月8日）13:30~14:15
- 会場：A会場（万座の間）

平成元年度秋季大会

() は講演数 (第1種—第2種と講演番号), —は座長

| | | A 会 場 | B 会 場 | C 会 場 |
|--------------|-----------------|--|---|--|
| 11月7日 (火) | 09:00~ 12:30 | 気候 (6-4, A101~A110) —星合 誠— 熱帯気象 I (7-2, A111~A119) —伊藤久徳— | 雲物理・積雲対流 I (4-9, B101~B113) —坪木和久— | 小気候・局地循環 (9-5, C101~C114) —高橋俊二— |
| | 13:30~ 16:00 | 熱帯気象 II (14-2, A151~A166) —杉 正人— —石原正仁— | 雲物理・積雲対流 II (6-2, B151~B158) —播磨屋敏生— 総観・中小規模現象 I (0-4, B159~B162) —永田 雅— | エクマン境界層 (7-5, C151~C162) —近藤裕昭— |
| | 16:10~ 17:30 | ポスター・セッション (概要紹介後講演) (P101~P109) | | |
| 11月8日 (水) | 09:00~ 12:00 | 総観・中小規模現象 II (10-3, A201~A213) —高橋 勲— | エアロゾル (8-5, B201~B213) —大和政彦— | 中層大気 (2-3, C201~C205) —余田成男— 気象力学 (6-4, C206~C215) —田中 浩— |
| | 13:00~ 15:15 | 山本賞, 堀内基金奨励賞授与, 日本気象学会奨励金贈呈 韓国気象学会会長 金正禹氏特別講演 山本賞, 堀内基金奨励賞記念講演 | | |
| | 15:30~ 17:30 | シンポジウム | | |
| 11月9日 (木) | 09:00~ 12:00 | 大気大循環 (13-3, A301~A316) —佐藤康雄— | 大気汚染・接地境界層 (13-3, B301~B316) —佐藤純次— | 放射 (3-3, C301~C306) —小林隆久— 大気化学 I (1-4, C307~C311) —青木周司— |
| | 13:00~ 17:00 | いろいろな視点からみた梅雨 (11-7, A351~A368) —吉崎正憲— —加藤内蔵進— | 観測・解析手法 (16-2, B351~B368) —中村健治— | 大気化学 II (7-5, C351~C362) —村尾直人— —川平浩二— |

注) 大会参加費 会員 1,000円, 学生会員 500円, 一般 1,500円

講演発表者へのお知らせ

1. A, B, C会場ともオーバーヘッド・プロジェクター使用可能です。
2. 講演および質疑時間は, 第1種講演はそれぞれ5分と2分以内, 第2種講演は10分と5分以内です。
3. スライドのマウントに番号をつけ, 上下をそろえて下さい。
4. ポスター・セッションの方法については「天気」5月号 (p.318) を参照して下さい。
またポスターに表題と発表者名を明記して下さい。

研究発表題目

(講演番号の*印は第2種講演を, 発表者名の*印は講演者を表す)

大会第1日(11月7日) 9時00分~12時30分

A会場 気候

座長 星合 誠(愛知学院大・教養)

- *A101. *山元龍三郎(京大・理・気候), 星合 誠(愛知学院大・教養): COADS の月平均気温データの系統的誤差
- *A102. 花輪公雄(東北大・理): 親潮(第一貫入)の年平均南限緯度と北太平洋上の風の場の関係
- A103. 梅本 亨(都立大・理): 北極域気温の Warm-core とブロッキングに由来する温暖高気圧
- A104. *鈴木力英・河村 武・劉 発華(筑波大・地球科学): 日本における対流圏中の気温逆転層の気候学的特徴
- A105. *立花義裕・山田知充・若濱五郎(北大・低温研): 山地積雪の過去100年間の経年変動の推定
- A106. *久木幸治・永田 豊(東大・理): 南極海の海水分布の季節変化と経年変化
- A107. 石島 英(琉大・短大): 台風長期変動の構造について
- A108. 土谷彰男(筑波大・院): 南米全域からみたブラジル北東部の降水特性
- *A109. 篠田雅人(東大・地理): アフリカ半乾燥地に干ばつをもたらす ITCZ と擾乱のふるまい——OLR データの解析——
- *A110. 松本 淳(東大・地理): 熱帯における季節変化の地域性

熱帯気象 I

座長 伊藤久徳(和歌山大・教育)

- A111. 冨田智彦(筑波大・地球科学): 1年型エルニーニョと2年越しエルニーニョ
- *A112. 井上豊志郎(気研・台風): 熱帯太平洋における'87および'84北半球冬季の雲分布および海面水温分布の比較
- A113. 山崎信雄(気研・台風): 太平洋高気圧の強さの季節内変動
- A114. 西 憲敬(京大・理・気候): 熱帯域30~60日変動の活動度の変化について(2)
- *A115. 伊藤久徳(和歌山大・教育): 遅い位相速度を持つ波動-CISK モードと30~50日周期

- A116. *見延庄士郎・竹内謙介(北大・理): 赤道波理論を用いた, 風速分布からの大気加熱の推定
- A117. 杉 正人(気研・気候): 1988年夏の長期予報実験
- A118. 竹内謙介(北大・理): 1986—87 ENSO におけるモデル海洋変動
- A119. 時岡達志・遠藤昌宏・長井嗣信(気研): MRI 大気海洋結合モデルによるアノマリー実験

B会場 雲物理・積雲対流 I

座長 坪木和久(北大・低温研)

- B101. 和田 誠(極地研), *越田智喜・劉 国勝・武田喬男(名大・水圏研): 南極の背の低い降雪雲のレーダー観測
- B102. *真木雅之・中井専人・八木鶴平(国立防災センター・つくば), 中村秀臣(国立防災センター・平塚): 津軽地方で観測された線状降雪エコーの構造
- *B103. *佐藤晋介・藤吉康志・若濱五郎(北大・低温研): トランスバースモードエコーのドップラーレーダー観測——上陸後のバンド内の風系——
- *B104. *城岡竜一・上田 博(北大・理): セル状エコーからの Snow Burst のドップラーレーダー観測
- *B105. *中井専人・真木雅之・八木鶴平(国立防災センター・つくば): 盆地における降雪雲のドップラーレーダー観測(その2)——平均した降雪エコーの分布——
- *B106. *上田 博・城岡竜一・高橋暢宏・松浦 馨・菊地勝弘(北大・理): 1989年5月21日札幌周辺に落雷をもたらした積雲群の構造
- *B107. 道本光一郎(防大・地球科学): レーダーエコーと発雷に関する研究
- *B108. *米山邦夫・高橋 勲(九大・理): ハワイのレインバンドの雲力学・雲物理学的研究——長続きするレインバンドと雨の集中化——
- B109. *和田 誠・青木周司(極地研), 瀬古勝基(名大・水圏研), 松原廣司・土井元久・上窪哲郎・岡田憲治(気象庁), 川口貞男(極地研): 大気

中の固体凝結水量, 液体凝結水量, 水蒸気量の見積り (1)——見積りの方法——

- B 110. *福田 寿・安井元昭・米山邦夫・原田 寛・高橋 勲 (九大・理), 遊馬芳雄 (北大・理), 赤枝健治 (気研・台風), 吉崎正憲 (東大・海洋研), 松野太郎 (東大・理): ポナペ島雄大積乱雲の雲物理学的研究 (1)——概要——
- * B 111. *安井元昭・下舞幸作・高橋 勲 (九大・理), 柴田利二・池端 誠 (姉明星電気): ポナペ島雄大積乱雲の雲物理学的研究 (2)——降水粒子イメージゾンデ (PPIS)——
- * B 112. *高橋 勲・福田 寿 (九大・理): ポナペ島雄大積乱雲の雲物理学的研究 (3)——10月4日の例——
- * B 113. *福田 寿・高橋 勲 (九大・理): 雲の赤外放射と雲粒成長

C会場 小気候・局地循環

座長 高橋俊二 (気研・応用)

- C 101. 遠藤辰雄・石川貴之 (北大・低温研), 山内 恭 (極地研), 掛川英男 (筑波大): NOAA 画像にみられた南極ブライド湾へ流れ込むダークストリームについて
- C 102. *真木太一 (熱帯農研), 黒瀬義孝 (四国農試): 香川県高瀬盆地における冬季の局地気象の特性解明
- C 103. 小林哲夫 (九大・農): 中海北西沿岸に発達する斜面下降風の風向の時間的変化について
- C 104. *高橋俊二・木村富士男 (気研・応用): 山の斜

面の温暖帯の数値実験

- C 105. 近藤純正・桑形恒男・*住岡昌俊 (東北大・理): 海風進入時の沿岸部における昇温過程
- * C 106. *鈴木 修・大野久雄・青柳二郎 (気研・衛星観測), 萬納寺信崇 (気象庁・数値予報): 晴天エコー内での海風前線の移動——ドップラーレーダによる観測
- C 107. *萬納寺信崇 (気象庁・数値予報), 大野久雄 (気研・衛星観測): 気象庁 10 km モデルによる筑波の海風前線
- * C 108. 近藤裕昭 (公害資源研): 大規模海風の成因について
- C 109. 瀬上哲秀・柳野 健・*山城幸浩・大野木和敏・加藤寿史・田中省吾 (気象庁・数値予報): 一層モデルによる地上風の数値実験 (1)
- * C 110. *余 偉明 (筑波大), 植田洋匡 (国立公害研), 河村 武 (筑波大・地球科学): $k-\epsilon$ 乱流モデルを用いた海陸風の重力流の数値実験 その2 Kelvin-Helmholtz Billows
- C 111. 水間満郎 (京大・原子炉): スペクトル法による海陸風数値モデルの構築 (Ⅲ)
- * C 112. *斉藤和雄・猪川元興 (気研・予報): 「やまじ風」の数値的研究
- * C 113. 猪川元興 (気研・予報): 2次元の山を越える, 2層流体の “High Drag State” と力学的に誘起されたフェーンについて (数値実験)
- C 114. 大井正一 (元・理大): 明治時代の山の気象の歴史

大会第1日 (11月7日) 13時30分~16時00分

A会場 熱帯気象Ⅱ

座長 杉 正人 (気研・気候)

石原正仁 (気研・台風)

- A 151. *高橋清利・村上勝人 (気研・台風): GMS 及び GOES 赤外データによる汎太平洋域における雲域変動の解析——スペクトル解析
- A 152. 高藪 縁 (国立公害研): 雲クラスターの組織化についての統計的解析
- * A 153. 邊田有理江 (京大・防災研): 熱帯低気圧の発生初期の状態について (2)
- A 154. 中沢哲夫 (気研・台風): スーパークラスターと関連した熱帯低気圧の発生
- A 155. *森 一正 (気研・予報), 山田 清 (気象庁・

海上気象): 西部熱帯太平洋における熱帯擾乱のレーダ観測——啓風丸 (89-02次) 観測航海速報——

- A 156. *藤井 健 (京産大・教養), 光田 寧 (京大・防災研): 南西諸島を襲った強い台風の気圧分布と風速分布の解析
- A 157. *荒生公雄 (長崎大・教育), 元田雄四郎 (九大・農): 台風8712号で観測された突風率の特徴
- * A 158. *田畑 明・榊原 均・石原正仁・柳沢善次・松浦和夫・青柳二郎 (気研): 2台のドップラーレーダーで観測された台風8514号の構造
- A 159. *岡村博文・山崎信雄・高橋清利 (気研・台風):

T8913の鉛直微細構造

- A160. 永井智広(気研・衛星観測): UHF帯ウインドプロファイラによる台風8913号の観測
- A161. 榊原 均・*石原正仁・田畑 明・赤枝健治・島津好男(気研・台風): 台風8913号の降雨帯のドップラーレーダー解析
- A162. *石垣雅和・下地朝勇・他(沖縄気象台), 高嶺武(宮古島地台): 台風8824号の北西象限における降雨帯内の鉛直構造と降雨分布について
- A163. 与那覇定吉・*白石幸嗣・他レーダー班(沖縄気象台): T8824のレーダーエコーの鉛直分布について
- A164. 正木 譲(宮古島地台), *上江洌 司・饒平名辰三・知念 浄(沖縄気象台): 台風8824号周辺部の鉛直構造について
- A165. *吉本真由美・木村竜治(東大・海洋研): 偏西風帯に侵入した台風に伴う上層雲の形
- A166. 原 昌弘(気研・台風): MRI 台風モデルにおける目の壁雲の特徴(序報)

B会場 雲物理・積雲対流Ⅱ

座長 播磨屋敏生(北大・理)

- *B151. *Takeshi Ohtake・Glenn E. Shaw(アラスカ大): 自然氷晶核の測定とその方法
- *B152. 垣内博行・*権田武彦(東理大・理工), 守矢一男(三井金属・電材研): 光散乱法による氷晶の内部構造の観察(2)
- B153. *播磨屋敏生・金村直俊(北大・理): 雪片の形成に関する観測
- B154. 油川英明(北海道教育大・岩見沢): 反射光による雪結晶の観察——雪結晶の「表」と「裏」——
- B155. 中田勝夫・山下 晃(大阪教育大), 浅野浅春(大阪教育大附高): 人工多結晶雪の研究
- B156. 梶川正弘(秋田大・教育): 雪結晶の落下運動について(3)
- B157. 岩井邦中(信州大・教育): 種々の液滴の落下中の形——その4——雨滴の平衡形との比較
- B158. 志尾 弥(北海道教育大): 地吹雪の荷電総観・中小規模現象Ⅰ

座長 永田 雅(気研・予報)

- *B159. 仁科淳司(東大・地理): 分離型降雪時・連続型降雪時の総観気象状況
- *B160. *二宮洸三(東京航空地台), 星野 薫(福井地

台), 栗原和夫(気象庁・数値予報): 日本海 Polar Low 発達 の 3-scale プロセス

- *B161. 高藪 出(人事院): 温帯低気圧のカップリングメカニズム
- *B162. 謝 平平(京大・防災研): GMS 画像データを用いた雲の解析について

C会場 エクマン境界層

座長 近藤裕昭(公害資源研)

- *C151. *井上治郎・光田 寧(京大・防災研), 沈 志宝・王 介民(中国科学院・蘭州高原大気物理研): HEIFE 地域の砂漠とゴビにおける試験観測
- C152. *山本浩之・児玉安正(弘前大・理): 暖候期北太平洋域の下層大気の成層状態(1988年7月の事例解析)
- *C153. *藤谷徳之助・萩野谷成徳(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(5)
- *C154. 萩野谷成徳・藤谷徳之助(気研): 熱帯域における大気境界層の観測(6)——熱帯域の大気混合層——
- C155. 蒲生 稔(公害資源研): 混合層上部に出現する積雲(その5)
- *C156. 沢井哲滋(気象庁・予報): 霧の予報——Now-casting とポテンシャル予報——
- C157. 栗田 進(気研・応用): 霧のバンド構造に関して
- *C158. 中国山地の霧研究グループ(*宮田賢二・荒瀬扶実代・相原亜希子・福岡純子・細川恵利子(広島女子大), 岡村康伸・小谷利彦・引野知幸・西岡佐喜子(広島地台), 金丸 努(気象協会), 後藤邦昭(三次高)): 中国山地の霧の研究(3)(三次盆地の霧の目視観測結果)
- *C159. 竹久正人(京大・防災研): 夜間逆転層についての観測
- C160. 野中善政(宮崎大): 大気乱流境界層の有限要素モデル——乱流方程式の計算法について——
- C161. 藤原滋水(東京学芸大), 木村竜治(東大・海洋研), 鈴木和史・内藤成規(気象衛星センター): 済州島風下のカルマン渦列の発生過程——Ⅱ
- C162. 木村竜治(東大・海洋研), 藤原滋水(東京学芸大), 鈴木和史・内藤成規(気象衛星センター): 済州島風下のカルマン渦列の発生過程(第3報)

大会第1日(11月7日)16時10分~16時30分

ポスターセッション概要紹介

- P101. *丸山健人・田中 実・森 一正・本多庸浩(気研・予報)：熱帯西部太平洋における大規模じょう乱の解析——1989年6月啓風丸観測航海時を中心として——
- P102. 瀬古勝基(名大・水圏研), 和田 誠・青木周司・山内 恭(極地研)：衛星データーを用いた南極域の雲気候学——大陸域と海洋域の変動傾向の違いについて
- P103. 阿部 豊(名大・水圏研)：地球型惑星の表面に海洋が存在できる条件(改訂版)
- P104. 菊地時夫(高知大・理)：サークル効果(ミステリーサークル)見聞記
- P105. 藤部文昭(気研・予報)：本州中部におけるひと雨降水時の地上風系と冷気層
- P106. *桑形恒男・住岡昌俊(東北大・理)：弱風晴天日に中部日本に発生する熱的低気圧の実態とその発生機構
- P107. 高橋俊二(気研・応用)：北陸のフェーンの数値実験(序)
- P108. *吉田作松・篠木誓一・澁谷喜博(気象協会・中央)：斜面方位と斜面日射量日変化パターンとの関係
- P109. 古津年章・*中村健治(通信総研), R. Meneghini・T.T. Wilheit (NASA/GSFC)：航空機搭載2波長レーダによる日米共同降雨観測実験

大会第2日(11月8日)9時00分~12時00分

A会場 総観・中小規模現象Ⅱ

座長 高橋 勲(九大・理)

- A201. 岩崎博之(名大・水圏研)：長寿命の中規模雲塊の Evolution
- A202. 銘苅真正・*金城勝重(南大東島地台)：亜熱帯地方における降雨と静止気象衛星から見た積乱雲やそのクラスターの振る舞い
- *A203. 三浦勇一(東理大・理工)：寒気の吹出に伴って発現する中規模渦状擾乱の構造 その1
- A204. *亀谷長勇・高嶺 武(宮古島地台), 上江洲久雄(沖縄気象台)：1988年4月28日の宮古島地方の集中豪雨について
- A205. 青梨和正(気研・予報)：'88年5月3日九州で発生した停滞性の大雨の予報実験
- A206. 和田美鈴(気研・予報)：Squall-line system の数値実験
- *A207. *坪木和久・若濱五郎(北大・低温研)：冬期季節風の寒気流中に発生する前線性小低気圧
- A208. 永田 雅(気研・予報)：日本海側の降雪の数値シミュレーションⅦ——収束雲帯の形成に関する数値実験補遺——
- A209. *山中大学・深尾昌一郎・有賀 理(京大・超高層), 中村 一(気象庁・数値予報), 津田敏隆・山本 衛・中村卓司・加藤 進(京大・超高層)：MU レーダー観測と気象庁数値予報モデルの比較による上部対流圏鉛直流変動の空間規模の研究
- *A210. 大野久雄・鈴木 修・青柳二郎(気研・衛星観測), 瀬上哲秀(気象庁・数値予報)：高度500Mにおける北東強風と低層ウィンドシャワーの短時間変動
- A211. *城岡竜一・上田 博(北大・理)：1988年9月22日千歳空港付近で発生したマイクロバーストとガストフロント
- A212. *与那覇 勲・友利 健・屋良 一・比嘉正則・座間味 忠(那覇航空測)：那覇空港で遭遇した乱気流とウィンドシアアーについて
- A213. *高橋 亨・道本光一郎(防大・地球科学)：千歳, 三沢をそれぞれ目的飛行場, 代替飛行場とする際に気象状態に関する規則から見た現状

B会場 エアロゾル

座長 大和政彦(名大・水圏研)

- B201. 村山信彦(駒女短大)：1989年3月の黄砂について及び黄砂舞い上がりしきい風速
- B202. 桜井兼市(北海道教育大・旭川)：日本海岸で採取した固体粒子について
- B203. *谷口 恭・菊地勝弘(北大・理)：エアロゾルの数濃度と粒径別体積比との関係
- *B204. *高村民雄(防大・地球科学), 笹野泰弘(国立公害研)：ライダーと航空機を用いたエアロゾ

ルの空間分布の同時測定

- *B 205. *林田佐智子・笹野泰弘・飯倉善和(国立公害研)：大型レーザーレーダーによる成層圏エアロゾルの観測(Ⅲ)長期的変動について
- B 206. *岩坂泰信・森田恭弘・高木増美・金田廣昌・近藤 豊(名大・空電研), 近藤幸治(高層気象台), 小野高幸(極地研), 野村彰夫(信州大・工), 青木周司・川口貞夫(極地研), 松原廣司(気象庁・高層), A.C. Aikin(NASA)：南極昭和基地での成層圏エアロゾル気球観測
- B 207. *大和政彦(名大・水圏研), 岩坂泰信(名大・空電研), 青木周司・和田 誠・川口貞男(極地研)：南極大気中における硝酸塩エアロゾルの存在
- B 208. *西川雅高・溝口次夫(国立公害研), 金森 悟・金森暢子(名大・水圏研), 青木周司・川口貞男(極地研)：昭和基地における大気エアロゾルの化学組成
- *B 209. *山崎孝治・岡田菊夫(気研), 岩坂泰信(名大・空電研)：昭和基地上空のエアロゾルはどこから来たのか？(2)
- *B 210. *林 政彦(名大・水圏研), 岩坂泰信(名大・空電研)：極域成層圏における氷粒子の成長と沈降—— H_2O , HNO_3 の輸送に関連して——
- *B 211. *岩坂泰信(名大・空電研), 林 政彦(名大・水圏研), 近藤 豊(名大・空電研), 大和政彦・古賀聖治(名大・水圏研), 小口 高(名大・空電研), W.A. Matthews(DSIR), P. Aimeidieu(CNRS)：オゾンホール形成時に見られた硝酸エアロゾルの役割——1989年北極オゾン国際気球観測——
- B 212. *太田正樹・田中 浩(名大・水圏研)：極成層圏雲(PSC)の数値シミュレーションと冬の極域成層圏の化学
- B 213. *兼保直樹・太田幸雄・村尾直人・溝口 勲(北大・工)：大気エアロゾルの気候形成に及ぼす効果(I)
- C会場 中層大気**
座長 余田成男(京大・理)
- C 201. 廣岡俊彦(気大)：南半球の最終昇温について——北半球との比較
- *C 202. *村岡良和(兵庫医大), 杉山卓也(京大・理), 深尾昌一郎・山本 衛・山中大学・津田敏隆・中村卓司・加藤 進(京大・超高層)：中間圏中規模風速擾乱のスペクトル構造
- *C 203. *深尾昌一郎・山中大学・有賀 理・阿尾直樹・津田敏隆・山本 衛・中村卓司・加藤 進(京大・超高層)：MUレーダーによる3年間継続観測に基づく上部対流圏～下部成層圏の内部重力波・乱流の気候学
- *C 204. 山中大学(京大・超高層)：準単色内部重力波仮説による中層大気の鉛直渦粘性/拡散係数
- C 205. 田中 浩(名大・水圏研)：慣性重力波の碎波と平均風との相互作用
気象力学
座長 田中 浩(名大・水圏研)
- *C 206. *丁 亨斌・木村竜治・三沢信彦・森 厚(東大・海洋研)：地表面の冷却によって生じる大気循環の流体実験(第4報)(軸対称の流れについて)
- C 207. *森 厚・木村竜治・三沢信彦・石川浩治・丁 亨斌(東大・海洋研)：地表面の冷却によって生じる大気循環の流体実験(第5報)——不安定波発生の条件——
- C 208. *玉木克美・宇加治一雄(福岡大・理)：回転水槽の実験で観測される tilted-trough vacillation (3)
- C 209. 三村和男・須田不二夫(東海大・教養)：円環型自然循環ループ内流体運動の Chaotic な振舞い
- C 210. *浅田 正(九州国際大), 山形俊男(九大・応力研)：2層モデルを用いた渦の数値実験
- C 211. *吉崎正憲・森 厚(東大・海洋研)：強制問題として解いた条件付不安定大気対流の線型論
- *C 212. 佐藤正樹(東大・理)：雲モデルによって求めた鉛直1次元温度構造について
- *C 213. 中島慎一(日本電気), 林 祥介(東大・理), 阿部 豊(名大・水圏研)：鉛直1次元放射対流平衡モデルを用いた「暴走温室効果」の考察
- *C 214. 竹広真一・林 祥介(東大・理)：浅水における過剰反射とシア不安定
- C 215. 水野芳成(気研・衛星観測)：流体の解析力学

大会第3日(11月9日) 9時00分~12時00分

A会場 大気大循環

座長 佐藤康雄(気研・気候)

- A 301. *深尾昌一郎・山中大学・古川 浩・津田敏隆・山本 衛・中村卓司・加藤 進(京大・超高層): MU レーダーで検出された対流圏界面ジェットの上下における鉛直流逆転現象(速報)
- A 302. 佐藤公喜(愛知県公害調査センター, 名大・水圏研): 等温位面における客観解析, 流跡線推定法について
- A 303. 藤井盛澄(大阪電通大): 寒気南下と発散循環の変動
- A 304. *宮崎保彦・新田 勅(気象庁・長期予報): 1月の日本の気温と北半球 500 mb 高度パターン
- *A 305. *山根理子(筑波大・環境), 安成哲三・河村武(筑波大・地球科学): 北半球中・高緯度の気候循環の持続性とその季節性
- A 306. 佐藤康雄(気研・気候): 北半球冬季対流圏大気の低周波変動の研究(II)——西太平洋ジェットと西大西洋ジェット——
- A 307. *鬼頭昭雄・山崎孝治・時岡達志(気研・気候): MRI・GCM で再現された南半球冬季二重ジェットとその年々変動
- A 308. *鬼頭昭雄・山崎孝治(気研・気候): 海洋上の島嶼による地表摩擦の大循環への影響について
- A 309. *岩嶋樹也・山元龍三郎(京大・理・気候): 時間・空間スペクトルモデルにおける大気大規模場の季節変化——南北両半球の大規模海陸分布が及ぼす影響——
- A 310. *岡田 格(筑波大・教育), 安成哲三(筑波大・地球科学): 大気の季節内変動が地球の極運動に与える影響
- A 311. 尾瀬智昭(気研・気候): 気象研 GCM に見られた季節内変動(2)
- A 312. 中村和信・*山田真吾・前田修平(気象庁・長期予報), 露木 義(気研・予報): 気象庁全球モデルにおける赤道域の30~60日振動の予報について
- A 313. 杉 正人(気研・気候): 気象庁全球モデルの系統誤差(その2)
- A 314. 前田修平・*山田真吾・中村和信(気象庁・長期予報), 露木 義(気研・予報): 気象庁全球モデルにおける北半球の予報精度と循環場の持続

性との関係(1988/89年冬)

- *A 315. 孫 沈清(中国新疆气象台, 東大・理): 全球数値予報モデル(GSM)降水量予想の検証——中国領域を対象として
- *A 316. 森山 茂(日大・生産工): 生命の存在と地球環境の生成
- B会場 大気汚染・接地境界層
- 座長 佐藤純次(気研・応用)
- B 301. 木村富士男・*佐藤純次(気研・応用): 東アジアと欧州における酸性雨の気象ポテンシャル
- B 302. 藤田慎一・市川陽一(電力中研), 外岡 豊(計量計画研): 東アジア地域からの二酸化硫黄の発生量の推計
- B 303. 岩本智之(京大・原子炉): 大阪における大気中 NO₂ 濃度簡易測定運動
- B 304. 竹内義治(日本気象協会・研): 関東地域の浮遊物質輸送経路の出現特性
- B 305. *片谷教孝(富士通エフ・アイ・ピー(株)), 岡本真一(東京情報大), 小林恵三(紘産業公害防止協会), 村尾直人(北大・工): 長距離輸送モデルのための流跡線の計算方法(II) 地形の影響の検討
- B 306. 吉川友章(気研・応用), 相川光明(数理計画): 粒子状汚染物質の湿潤フォールアウト
- B 307. 佐藤純次(気研・応用): 接地気層におけるパフの流れの方向の濃度分布
- B 308. *栗田 進・佐藤純次・吉川友章・鈴木 修・松浦和夫(気研), 筑波混合層研究グループ[代表: 横山長之(公害資源研)]: レーダーによる境界層上部での拡散幅の測定
- B 309. *岩谷祥美(日大・生産工), 塚本 修, 大滝英治(岡山大・教養), 光田 寧(京大・防災研): 長大棧橋を用いた海上風の乱流構造の観測(2)
- B 310. *金 栄彦・木村竜治(東大・海洋研): 日本海南部及び東シナ海に於ける大気・海洋間の熱交換量
- B 311. 近藤純正・*三枝信子(東北大・理): 土壌モデルによる裸地面蒸発のシミュレーション
- *B 312. *渡辺 力・近藤純正(東北大・理): 植被層内の混合距離モデルの改良
- B 313. *山崎 剛・近藤純正・渡辺 力(東北大・理), 佐藤 威(国立防災センター・新庄): 果樹園

における熱収支観測と2層モデルの適用

- *B314. *安田延壽・山際龍太郎(気大): 大気・植生相互作用の微細モデル
- *B315. *三上正男・戸矢時義・藤谷徳之助(気研・応用), 安田延壽(気大): 森林上の気象特性と蒸発散量の評価(1)
- B316. 光田 寧・山田道夫・*樋口宗彦(京大・防災研): 特殊地形上に於ける乱流特性について

C会場 放射

座長 小林隆久(気研・応用)

- *C301. *山本泰輔(日本電気㈱), 村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北大・工): 気象衛星データを用いた地表面反射率の評価
- C302. *青木輝夫・青木忠生・深堀正志(気研・物理), 川口貞男(極地研): ビデオ放射計の開発と南極あすか観測拠点における観測
- *C303. *早坂忠裕・谷津昌洋・田中正之(東北大・理), 劉 国勝, 武田喬男(名大・水圏研): 雲の放射特性と雲水量について——WCRP「雲と放射」航空機観測より——
- *C304. 小林隆久(気研・応用): 3次元放射伝達方程式のDOM解
- C305. 廣野幹彦(新潟大・工): NOの吸収帯強度と吸

収線形

- C306. 村松久史(京大・防災研): メタンの放射効果について

大気化学 I

座長 青木周司(極地研)

- *C307. *鶴田治雄(横浜市公害研), 安田憲二(神奈川県公害センター), 石川義紀(大阪府環境保健部), 秋元 肇(国立公害研), 竹本和彦(環境庁・大気規制課): 日本におけるメタンの発生源とその排出量の推定
- C308. *酒巻史郎・畠山史郎・鷺田伸明(国立公害研): 小笠原でのフロン類の測定(1) CFC-11の測定結果
- *C309. *中澤高清・宮下孝治・青木周司・田中正之(東北大・理): 北太平洋東部及び西部海域における大気中のCO₂濃度
- *C310. 中澤高清・*町田敏暢・江角研二・村山昌平・田中正之(東北大・理), 藤井理行・青木周司・渡辺興亜(極地研): 氷床コアからの空気抽出方法について
- *C311. 古賀聖治・*田中 浩(名大・水圏研): 植物プランクトンと大気中の有機硫黄化合物

大会第3日(11月9日) 13時00分~17時00分

A会場 いろいろな視点からみた梅雨

座長 吉崎正憲(東大・海洋研)

加藤内蔵進(名大・水圏研)

- *A351. 二宮洗三(東京航空地台): 梅雨前線帯の降水システムの複スケール構造と中緯度擾乱
- *A352. 秋山孝子(気研・予報): 梅雨前線上の中間規模降雨系の多様性
- A353. 東 善広(名大・水圏研): 梅雨前線上のメソスケールのクラウド・クラスター群の特徴の変動の研究
- A354. *肥後雅博・吉崎正憲・浅井富雄(東大・海洋研): 1988年梅雨末期にみられたクラウドクラスターの収支解析
- A355. *大野久雄・永井智広(気研・衛星観測), 栗原和夫(気象庁・数値予報): UHFウインドプロファイラによる梅雨時の『前方に傾いた低気圧』の観測
- A356. *渡辺 明(福島大・教育), 住 明正(東大・理):

MUレーダーで測定した前線付近の大気運動

- *A357. 石原正仁・榊原 均・田畑 明・赤枝健治(気研・台風), 横山辰夫(福岡管区): 沖縄地方における梅雨期の降水システムの特徴
- A358. 荒生公雄(長崎大・教育): 長崎県南部地方における降雨活動の消長
- *A359. *高橋暢宏・上田 博・菊地勝弘・岩波 越(北大・理): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その5: 7月17日深夜の降雨のレーダー観測——
- A360. *高橋暢宏・上田 博・菊地勝弘・岩波 越(北大・理): 1988年7月長崎県西海町における降雨観測——その6: バンド状エコーのレーダー解析——
- A361. 榊原 均・石原正仁・田畑 明・岡村博文・島津好男・赤枝健治(気研・台風): 梅雨期の中間規模低気圧ともなる温暖前線付近で発生した集中豪雨

- A 362. 赤枝健治・田畑 明(気研・台風)：梅雨前線上の雲頂温度の低い領域の時間変化と移動——1988年7月15日のケース——
- *A 363. 村上正隆・松尾敬世・水野 量・山田芳則(気研・物理)：東日本の梅雨前線に伴う降水雲の微物理構造
- A 364. 加藤内蔵進(名大・水圏研)：水蒸気分布と関連した亜熱帯高気圧の構造について——1988年7月の事例解析(序報)——
- A 365. 平沢尚彦(名大・水圏研)：日本付近における雲でみた前線帯の変動(暖候期)——南北変動を中心に——
- *A 366. *加藤内蔵進(名大・水圏研), 児玉安正(弘前大・理)：日本付近の準定常雲帯形成と大規模循環場の季節進行——1979年5月頃——
- *A 367. *N.K. Vyas・瓜生道也(九大・理), 山形俊男(九大・応力研)：The Japanese Bai-u and the Indian monsoon : A comparison of the long term trends
- A 368. 松本 淳(東大・地理)：梅雨前線帯の季節推移と南アジアのモンスーン活動
- B会場 観測・解析手法**
座長 中村健治(通信総研)
- B 351. 大河内康正(八代高専)：一地点観測局の時系列データを用いた気象日変化の予測について
- B 352. *韭沢 浩・上田真也(気研・衛星観測), 辻雅彦(札幌管区)：視程計実験装置について
- B 353. *寺田浩一郎(電総研), 池田 弘・三宅行美・青島 武・近藤新吾(英弘精機㈱)：回転式日照計の誤差を確認するための模擬太陽移動システムについて
- B 354. タウシル・ブンマ(モンクット工科大), *森屋 俣昌(東海大), 西原 寛(協和電設)：瞬時降雨強度計の開発とその試作
- B 355. *浅野和俊・東山禎夫(山形大・工), 渋谷 章(光進電気工業)：かご型イオン風速計の風向特性
- B 356. *韭沢 浩・大野久雄・鈴木 修(気研・衛星観測)：下方転移する低層ウインドシヤーの極大域
- B 357. *片岡 毅・生野元昭(㈱関西総合環境センター), 小南寛彦・赤野 徹(関西電力㈱)：複雑地形におけるドップラーソーダーを用いた風の観測(アンテナエンクロージャーのフレア効果について)
- *B 358. 光田 寧・*堀口光章・竹久正人(京大・防災研), 范 錫安・凌 佩舜・楊 新興・趙 千虹・陳 帆(中国環境科学研究院)：ドップラーソーダーの比較観測について
- B 359. *増田悦久・阿波加純・岡本謙一(通信総研), 津田敏隆・深尾昌一郎・加藤 進(京大・超高層)：歪んだ音波面からの RASS エコーの解析
- B 360. *沖 大幹・虫明功臣(東大・生産研), 吉野文雄(土木研)：Z_{DR}に関する理論計算と問題点
- B 361. 上田 博(北大・理)：ドップラーレーダーで得られる Spectrum Width 分布の検討
- B 362. 中村健治(通信総研)：偏波レーダーデータの一解析法
- B 363. *三角幸夫・青梨和正(気研・予報)：レーダーによる降水強度分布の統計的手法を用いた補正
- *B 364. *大野裕一・井口俊夫・梅原俊彦・野崎憲朗(通信総研)：短波海洋レーダーを用いた海上風の測定について(2)
- B 365. 岩坂泰信(名大・空電研), *林 政彦(名大・水圏研)：ラマン散乱を利用したライダーによる水蒸気量計測
- B 366. 鈴木 睦・横田達也・竹内延夫(国立公害研), 下田昭郎(筑波大・環境), 松崎章好(宇宙研)：ADEOS 搭載衛星大気センサー ILAS の暫定仕様
- B 367. *下田昭郎(筑波大・環境), 横田達也・鈴木 睦・竹内延夫(国立公害研)：数値シミュレーションによる衛星センサー(ILAS)のオゾン鉛直濃度分布の推定法
- B 368. *竹田 厚・渡部 勲(国立防災センター), 吉崎正憲(東大・海洋研)：衛星データに基づく海面フラックスの評価(1)既存のデータ利用の一方法
- C会場 大気化学Ⅱ**
座長 村尾直人(北大・工)
- C 351. *村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北大・工)：黄砂粒子と硝酸ガスとの反応
- *C 352. 太田幸雄・村尾直人・溝口 勲・*竹沢祐幸(北大・工)：大気中の降下物質の測定(3)
- *C 353. 太田幸雄・村尾直人・溝口 勲・*前田高尚(北大・工), 小林弘幸(三菱電機)：札幌における NO₂ 及び SO₂ の濃度分布測定
- C 354. 豊澤澄治・市川省吾・石井邦彦(岡山県環境保

健センター)：岡山県における地上風向と酸性雨の地域特性について

- C355. *鶴田治雄・太田正雄・渡辺善徳・矢本てるみ・平野耕一郎(横浜市公害研), 石坂 隆(名大・水圏研)：乗鞍岳における霧水の化学組成(第一報)
- *C356. *太田幸雄・村尾直人・溝口 勲(北大・工), 栗飯原範行(昭和電工株)：大気中過酸化水素の雲水酸性化に及ぼす効果
座長 川平浩二(富山工専)
- C357. *速水 洋・村尾直人・太田幸雄・溝口 勲(北大・工)：バックグラウンドオゾンの都市大気環境に及ぼす影響
- *C358. *青木周司・和田 誠・川口貞男(極地研), 功刀正行・溝口次夫(国立公害研), 村山昌平・中澤高清(東北大・理)：南極昭和基地における地上オゾン濃度の連続観測
- C359. 近藤幸治(高層気象台), 岩坂泰信(名大・空電研), 川平浩二(富山高専)：南極成層圏におけるオゾン量変化と気温変化
- C360. 川平浩二(富山高専), 広岡俊彦(気大)：オゾンホールと平均風変動の相互関連
- C361. 笹野泰弘・中根英昭・林田佐智子・杉本伸夫・松井一郎・湊 淳(国立公害研)：成層圏・対流圏オゾン観測用多波長レーザーレーダー：その4 成層圏オゾン濃度の季節変化(1988年8月~1989年6月)
- *C362. *秋吉英治・瓜生道也(九大・理)：簡単なモデルによる月別オゾン全量の緯度分布

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし、著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

編集後記：今年はこれまでのところ台風の当たり年と言えそうです。8月末の現時点で18個発生しており、そのうちすでに2個が九州に、1個が関東に、さらに1個が四国から近畿に上陸しました。皆様の地方への影響はいかがだったでしょうか。昨年の8月にも台風が多く発生しましたが、その発生場所は日本のごく近海で、いわば未熟児の状態で日本へやってきました。今年の発生位置は北緯20度付近で、十分に発達してから日本に近づいたので被害も大きくなったようです。近年、強い台風の日本への接近・上陸が減ってきていると言われますが、天災は忘れたころにやってくる、と申しますから、災害への備えを怠らないようにしたいものです。

さて、暑かった夏も過ぎ、スポーツの秋、文化の秋そして読書の秋がやってきました。天気編集委員会では、ご好評をいただいた「気象学への手引き」の続編として最近10年間に発行された気象学関連書籍の簡単な紹

介を分野別にその道の専門家の方にやっていただく企画を準備中です。気象学も細分化が進んでおり、すべての分野について最新の状況を把握することはほとんど不可能と言えるのではないのでしょうか。この分野についてはこのような教科書がある、あるいは、この本を読めば最近の状況がわかる、といった情報を専門以外の人々にわかっていただけの欄にしたいと考えています。

また、「本だな」の欄の充実を望む声も上がっています。編集委員会としても努力はしてまいりますが、数多く出版される気象関連書(洋書を含む)を網羅的に入手し書評を依頼することは難しいように思います。そこでお願いなのですが、会員の皆様がこの秋の夜長にお読みになった本で、これは他の気象学会員にも読んでもらいたい名著あるいは特色のある本であると、思われるものがありましたら、ご紹介いただけないでしょうか。編集委員会宛てにお気軽にご投稿ください。(吾)